

3. ハリネズミと蝶々

エバとバータの話に触発された

何年も前のことです。あるハリネズミは気分が悪くなり、目眩がし始めたので寝転がって休むことにしました。彼はすぐに深い眠りに落ち、夢を見始めました。遊んでばかりいた小さい頃の夢でした。

丘の上で走って小川に飛び込み、笑ったり歌ったりしていました。彼はそれらの楽しく幸せだった時のことを覚えていました。そして彼は夢の中でとても幸せでした。その時何か奇妙なことが起こり始めたのです。彼は明るい色の光が彼の方に向かってくるのを見ました。

「どうして？これには何の意味があるのだろうか？」と彼は思いました。

そしてその明るい光は、たくさんの色がある羽を持ったはためく虫のような、小さな綺麗な鳥になったのです。

「あなたは誰？」とハリネズミは聞きました。「私はあなたの友達よ」とその小さな飛ぶ虫は言いました。

「何か困ったことがあった時あなたは私を呼ぶべきで、私に困ったことがあった時あなたは私を呼ぶべきなの。わかる？私たちはみんな癒しの友を持って生まれたのよ。私はあなたの友で、あなたは私の友なのよ。」

そしてその虫は飛び去って行きました。ハリネズミはこの夢でいい気分になり、すぐにこの素晴らしい眠りから覚めました。彼が起き上がろうとした時、すごく目眩がしてまた気分が悪くなりました。ハリネズミは病んでいました。とても病んでいたのです。

ハリネズミの友達が急いで彼の周りに集まってきました。

そして医者のアリは彼をみて言いました。「あなたには花からできた薬が必要です。でも一番よく効くその花の薬はここからとても遠い高地にあります。どうやってその薬を手に入れたらいいのか、私にはよくわかりません」

その時、いきなり一羽の”蝶”が現れ、ハリネズミはそれが夢に出てきた生き物と同じだったのでとても驚きました。

「私が助けてあげられるかも」と蝶は言いました。「私なら一番高いところにある花に行って鞘から樹液を吸い取れるわ。先生、どの花を探せばいいの？」

医者は蝶にその花を教え、すぐに彼女はそれを探しに飛び立って行きました。「急いでね！」と医者は言いました。「もう時間があまり残されてないんだ。」

すぐに1時間そして2時間と過ぎて行きました。すると突然蝶が薬と一緒に戻ってきてハリネズミにそれを注射したのです。

ハリネズミは眠りに落ち、他の動物たちは彼が元気になるようにと祈りました。

彼らは三日間祈りました。ハリネズミは眠り、またあの飛ぶ虫の夢を見て、それが自分を助けに来てくれたその蝶だということに気がきました。

その薬と睡眠のお陰で体を休められて回復し、彼は目覚めました。

「どうして知っていたの？」と彼は蝶に聞きました。「僕を助けに来ることを」

「あなたに私の助けが必要で、私がここに来るってことはその前日の夜まで知らなかったわ。何日も前、誰かと友達になる変な夢を見たの。そして何かが私をここへ引き寄せたのよ。私があなたを見た時、夢の中で友達になったのがあなただってわかったの」
その夜、小動物たちみんなと色々な色の蝶々は、必要な時に助け合うことで合意しました。

ハリネズミは立ち上がってその蝶々を長く抱きしめて言いました「これから一生僕たちは友達でいよう」

そうやってハリネズミと蝶々は友達になったのでした。

今日でも蝶々とハリネズミと一緒に考え、笑い、走り、助け合っているのを見ることができます。

-終わり-